

第4回丹波市自治協議会のあり方懇話会(摘録)

開催日時	平成30年11月20日(火)午後2時00分開会～午後4時10分閉会
開催場所	山南住民センター 集会室
出席者	<p>【委員】 久隆浩委員、大野亮祐委員、西垣伸彌委員、清水明委員、田中延重委員、畑田久祐委員、澤村安由里委員、田邊和彦委員、田村庄一委員、荒木伸雄委員、田中義人委員、吉積明美委員、足立純子委員</p> <p>【丹波市】 副市長</p> <p>【事務局】 まちづくり部長、市民活動課、各支所</p>
欠席者	<p>【委員】 足立德行委員、藤本修作委員、永井正伸委員、吉見温美委員、増南文子委員</p>
傍聴者	12名
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 座長あいさつ 3 会議の公開・非公開の決定について 4 報 告 <ol style="list-style-type: none"> (1)第3回会議摘録について (2)前回までの会議概要 5 協 議 <ol style="list-style-type: none"> (1)委員意見交換 6. 第5回懇話会開催日程等 7. 閉 会
資 料	<p>【資料1】第3回会議摘録</p> <p>【資料2】前回までの会議概要(第1回～3回)</p> <p>【資料3】丹波市自治協議会のあり方懇話会～これまでの議論の振り返り～</p> <p>【資料4】今後の自治協議会の「組織運営」、「活動内容」のあり方について (前回資料5と追加項目)</p> <p>【資料5】自治協議会アンケート 自治協議会の実情について(「拠点施設」、「人・財源」のうち「財源」)</p>

会議摘録	
発言者	発言の要旨
座長	<p>1 開 会</p> <p>2 座長あいさつ 本日で第4回目となり、前回までの会議内容を振り返りながら、中間報告に向けて進めて参りたいと思う。 本日は、副市長に出席頂いている。副市長からあいさつを頂きたいと思う。</p>
副市長	<p>本日は日差しの良い日となり、丹波の秋という感じである。 先日、篠山市では市長選挙と合わせて市名変更を問う住民投票が行われた。投票率が50%を超えて開票された結果、丹波篠山市への市名変更の賛成が多かったという事である。いよいよ丹波篠山市に向けて動き出して行くのであろうというところである。 私達丹波市としては、丹波というブランドの高さをあまり意識していなかった様に思う。篠山市で丹波というブランドの高さが議論される中で、丹波というブランドは全国に通じるブランドであると改めて感じた。これからは、丹波というブランドを篠山市と共に協力をして、全国に発信していく様な取り組みが重要なのだろうと思う。その中で、地域づくりと一緒に丹波というブランドを使って進めていけたらと思う。 本日は第4回目という事で、いよいよ本格的な一番重要なところに差し掛かってくる様に思う。私としては、特に【資料4】今後の自治協議会の「組織運営」、「活動内容」のあり方について、というところが非常に重要になってくると思う。現状では、自治協議会を制度化した理由や自治協議会のエリアを小学校区にした理由について、正確な事ははっきりしていないように思う。その理由について、【資料4】にて仮説を立ててあり、本日議論を頂きながら、懇話会の議題となればと思う。 是非、忌憚(きたん)のない意見や議論を期待する。 本日はどうぞよろしくお願いする。</p>
	<p>3 会議の公開・非公開の決定について ○公開に決定。</p>
事務局	<p>4 報 告</p> <p>(1)第3回会議摘録について 第3回会議摘録を【資料1】として付けている。懇話会での皆様の意見を再確認頂くために添付している。前回は自治協議会組織図やアンケート結果等を資料としてフリートークで地域の実情や好事例等に触れて頂き、共通する地域の課題について協議頂いた。</p>
事務局	<p>(2)前回までの会議概要 前回までの会議概要として、【資料2】で第1回～第3回までの懇話会開催ごとに概要をまとめた資料を用意している。これまでの意見頂いた内容を見やすく、市民の皆様にお知らせするとともに、委員の皆様にも更に議論を深めて頂ける様に整理させて頂いた。概要について、資料に沿って説明させて頂く。</p>

会議摘録	
発言者	発言の要旨
	<p>まず第1回の概要について、タイトルの横にQRコードを付けている。スマートフォンなどで読み取って頂くと、あり方懇話会のホームページにアクセスできる様になっている。そこで、会議資料や内容等を見て頂ける様になっている。</p> <p>第1回では、懇話会の趣旨や今後の進め方、スケジュール等を説明し、座長による考え方の整理のため講義を頂いた。フリートークでは地域の好事例や課題、組織の現状について議論を頂いた。矢印で、頂いた意見や課題とそれに対する考え方を記載している。</p> <p>第2回では、自治協議会にアンケート調査をお願いし、参画と協働の状況について各自治協議会に検証を頂き、グラフ化したものを資料として提示した。懇話会では組織運営や活動内容について、多くの発言を頂いている。</p> <p>具体的には、「情報共有」という点では、地域の窓口を統一することの必要性についての意見があった。また、「住民との情報のやりとり」という点では、自治協議会に自治会長が理事として入っている事から、意見収集や浸透が図りやすい仕組みがあるという意見があった。「若い方にはやりがいが必要」という点では、実行委員会方式は今後の運営のあり方として良いのではないかと、役員の負担軽減にも繋がるのではないかと。という議論であった。</p> <p>第3回では、【資料1】と重なるが、組織運営や活動内容を中心に、議論を深めて頂いた。「組織運営」の項目では、意思決定と執行機関の関係について議論を頂いた。「活動内容」の項目では、地域で実施された住民アンケートからも、高齢者福祉が大切との意見が出た。このような内容を基に、本日の協議をお願いしたいと考える。</p>
事務局	<p>5 協 議</p> <p>(1) 委員意見交換</p> <p>① 丹波市自治協議会のあり方懇話会～これまでの議論の振り返り～</p> <p>【資料3】「丹波市自治協議会のあり方懇話会～これまでの議論の振り返り～について説明する。</p> <p>これは、第3回会議までに議論を頂いた内容を事務局にて整理した資料である。整理の仕方としては、中間取りまとめとして、次の(1)～(3)のイメージを挙げている。</p> <p>(1)自治協議会を設立した目的と期待した役割の確認について、丹波市総合計画での位置付けや丹波市自治基本条例の内容等にて事実の確認として整理した。2ページから3ページ中段までに①から⑤に挙げる視点で整理している。</p> <p>(2)では、自治協議会の当初想定と現状との相違を懇話会の意見等を踏まえて記載している。3ページ下段から①活動実態、②組織体制、③自治会の位置付けとして頂いた意見をまとめている。</p> <p>(3)今後の検討の方向性では、自治協議会のあり方の基本的な方向性を整理していくにあたり、組織の軸となる「活動内容」「組織運営」「自治協議会の姿(言い換えれば目指す組織の性格)」について、今まで議論頂いた意見を事務局なりに整理している。</p> <p>この辺りについても、追加事項や不備な点を議論頂きたいと思う。</p>
事務局	<p>② 今後の自治協議会の「組織運営」、「活動内容」のあり方について</p> <p>【資料4】の今後の自治協議会の「組織運営」、「活動内容」のあり方について</p>

会議摘録	
発言者	発言の要旨
	<p>て説明する。</p> <p>【資料4】の6ページに、4 市が期待する方向性を追加した。前回職務代理からご意見頂き、今回提示した形である。</p> <p>【資料4】について順を追って説明する。この【資料4】では、自治協議会の設立当時の性格や役割について、当時、関わっていた職員、委員より聞き取りを行ったものの、詳しく説明された経緯がなかった事から、自治協議会の性質や役割についての仮説を立てたものである。</p> <p>検討の視点として、①どのような目的で、どのような役割を求め自治協議会を作ったのか、②当初の目的、性格はどのようなものを想定していたのか、現在との相違はあるのか。③10年後20年後の自治協議会を考え、目的や性格を変える必要があるのか。④今後はどのような取り組みが必要かであるのかを挙げている。</p> <p>1では、自治協議会制度の創設経緯を記載している。ページは資料4の1ページから2ページにかけてである。(1)自治基本条例での制度上で明確にしたこと、(2)では丹波市総合計画における「参画と協働」を総合計画のリーディングプロジェクトとして位置付けし、プロジェクトを進めるための自治協議会とその期待を示している。</p> <p>2ページ中段からは、2 自治協議会の創設時の性格、役割にかかる仮説を立てている。(1)では、自治会や老人クラブ、その他団体の支援や、地域課題を解決するには相互に応援し合える「ゆるやかなネットワーク組織」が必要であったと仮説を立てている。また、(2)では自治協議会のエリアを小学校区とした理由について仮説を立てている。それは、地縁組織が将来にわたって組織を維持し活動を継続していくために、基礎的な組織を応援する「ゆるやかなネットワーク組織」が必要であり、応援し合える活動を無理なく行い話し合いが容易にできる範囲や地域課題が共通している範囲として、小学校区と定めたのではないかと考えられる。(3)では、自治協議会の性格、役割において、座長の定義する「統合型」、「補完型」、「支援型」のどの類型を想定して自治協議会がつけられたのかを仮定した。それは、全ての団体を吸収してしまう様な「統合型」ではなく、自治協議会を構成する自治会等との基礎的地縁組織が相互に応援し合うという意味での「支援型」と、相互に応援してこれまでできていなかった、自治協議会としての新しい活動を展開するという意味の「補完型」の活動との両面をもった「ゆるやかなネットワーク組織」であったと考えられる。</p> <p>5ページに移る。3 現在の自治協議会の組織運営や活動内容は、変える必要があるのかという視点である。少子高齢化や地域組織の担い手不足等の状況があり、活動がマンネリ化している状態であるという意見もある。さらに10年後を考えると、変える必要があるのではないかと考える。どの様に変えるのかについて、①の「発想」と②の「やり方の転換」として記載している。</p> <p>6、7ページには、市が期待する方向性として、子どもから高齢者まで、誰もが一緒に笑いが絶えない自治組織や子どもから高齢者まで、誰もが互いに見守り、支え合いができる自治組織などを揚げ、組織運営について、「階層組織型」ばかりでなく「ネットワーク型組織」も含めた継続できる組織体制の仕組みづくりや寛容性のある組織体制などを挙げている。それをイメージしたものが参画と協働が基礎にある「小規模多機能自治組織」としている。また、活動内容では、市と地域が同じ方向に進む取り組みとして(総合計画と地域づくり</p>

会議摘録	
発言者	発言の要旨
座長	<p>計画)の位置づけや地域社会の福祉力を高める活動を揚げており、それは「誰もが必要としている活動を誰もが楽しく取り組める活動へ」としている。</p> <p>以上、【資料3】、【資料4】について、資料説明をさせて頂いた。これまでの振り返りも併せて、今後の自治協議会の「組織運営」、「活動内容」のあり方について、議論頂きたい。</p> <p>今までの整理とその発展について話を頂いた。副市長からも話を頂いた様に、そもそも、自治協議会がどの様なものなのかという事の共有が、まだまだ出来ておらず、自治会をはじめとした地域団体と自治協議会の関係について考える必要があると思う。</p> <p>また、実際に組織運営がどうなっていくのかというところがある。まずは、資料4の1ページから5ページに書かれている自治協議会の位置付け、役割、この辺りの議論をさせて頂きたいと思う。</p> <p>資料は市役所として整理をして、仮説を定義したものである。「ちょっと違う。」「私はこう思う。」という様なご意見を賜りたいと思う。</p>
委員	<p>自治協議会のエリアを小学校区とした理由について、大体この通りだと思う。当時、自治基本条例の策定に関わっておられた、帝塚山大学の中川先生がよく言っていた事に、顔見知りの範囲内だという話をよくされていた。小学校区全てが顔見知りというのはなかなか難しいが、私もよくその様な伝え方をさせて頂いていた。その様な事を追加頂ければありがたいと思う。</p>
委員	<p>資料4の冒頭にて、自治協議会のスタートの時期と自治基本条例のスタートの記述がある。1ページにて、「住民の総意を代表する自治会がある中で」という記述の中に、「なぜ自治基本条例を制定して自治協議会を作ったのか」という表現がある。これでは、自治基本条例が先に出来て、自治協議会が後に出来たという様に捉えられる。これは事実と反すると思う。平成19年4月に自治協議会が出来た所が多い。自治基本条例は5年遅れて、平成24年の制定である。この表記はおかしいと思う。</p> <p>それから、なぜ小学校区を自治協議会の活動範囲と決めたのかについて、先程の発言の通り、顔の見える関係というものもある。また、資料では、「原則として、日常的に顔の見える範囲であり、住民も比較的なじみがあり、地域の核でもある小学校を中心とした区域を範囲とすることが適当であると思われる。」という表現がある。時代はどんどん変わっていくので、そうばかり言えないところもあったり、小学校が統合したりという事があるので、ここは根幹となると思うが、そここのところを一度把握しておく必要があると思う。</p> <p>それから、もう1点。今後の自治協議会のあり方として、「支援型」や「補完型」、「統合型」という話がある。これを考える時に、最初に考えておかなければならないことである。それは、この自治協議会のあり方というのは、何年後を1つの目標として考えるのか、10年後の展望を考えるのか、そうではないのかということである。現在、丹波市では未来都市創造審議会というものがある。20年先を見通して、丹波市の将来を考えている。今回のまとめ資料を見ると、未来都市創造審議会の議論がかなりこちらに来ていると思う。なので、何年先を目標としてあり方を考えて行くのかということを押さえないと、未来都市創造審議会との関連の整理の仕方も問題になるのではないと思う。つま</p>

会議摘録	
発言者	発言の要旨
座長	<p>り、あまり未来都市創造審議会を意識すると、コンパクトシティという方向に行ってしまう。コンパクトシティを極端に言えば、周辺地域を廃止して、中央に集まりましょうという国の考え方がある。それが良いのかどうかを今、議論すべきかどうかということも感じるので、その辺りは、未来都市創造審議会の方にお任せをした方がいいのではないかと思う。少しその辺りの議論のポイントについて思った事を述べさせて頂いた。</p> <p>自治基本条例の文言や、そこへ至るまでの会議録等が残っているはずなので、その辺りの事実をしっかりと押さえて記述をしてくださいという事を申された。</p> <p>また、事実確認として、未来都市創造審議会との関係について、事務局としては意識しているのか、意識していないのか、どちらであるか。</p>
副市長	<p>未来都市創造審議会と自治協議会のあり方懇話会は、密接に関係をしているという様に思っている。</p> <p>未来都市創造審議会の目指す事は、単にコンパクトシティを目指す事とは異なる。行政機能や商業機能、経済機能などの都市機能を中心部に一定集中させるが、住む場所は住み慣れた今の元々の所に住み続けて頂くというものである。住み慣れた所に住み続けていくために、どうするのがいいのかというと、地域の課題を地域で解決するだけの地域の力をつけていかなければならない。そのために、自治会や自治協議会が、きっちりと地域課題を解決する力を持つ必要があるという流れがある。それを前提に、これからの自治協議会が機能するにはどうしていけばいいのかという核論についてはこの懇話会で議論をして頂き、未来都市創造審議会に反映をしていきたい。</p> <p>その様な意味では、住み慣れた所に住み続けて頂くために、それを前提として、自治協議会のあり方を考えていくということが出発点であると考えている。</p>
座長	<p>今の話では、将来も住み慣れた所に住み続けていく、人が動かないという事である。人が動かないという事は、コミュニティの単位として、今後も同じ単位でやっていく。その辺りに対して、どういう様な協議会運営をしていくか、この様な事を考えて頂きたいと思う。</p> <p>10年後20年後という発展系を考えるのも1つの方法ではあると思う。また、最終的に目指したい理想的な形を議論していく事も重要な事ではないかと思う。</p> <p>私は講演の中で、3つのタイプについて話をさせて頂いた。これは、どれが良い悪いという話ではなく、自治協議会や地域の組織団体、全体を見通して関係性を整理する中で、自治協議会が地域でどの様な位置付けでいくかというところで、3つの形があるのではないかという事である。共通している事は、今まであった組織の全体像を上手く整理してみるという事だと思う。</p>
委員	<p>副市長が言われた、未来都市創造審議会と自治協議会のあり方懇話会の関係について、私は両方に出席しているため、両方の意見の方向性はある程度わかるが、片方しか参加していない委員は分かりにくいと思う。両会議で出た意見をどの様に共有していくのか考えていかないと、いくら副市長がそう</p>

会議摘録	
発言者	発言の要旨
委員	<p>いう位置付けをされても、違う委員会の内容が分からない現状では、これからの議論は難しいかと思う。その辺りを配慮頂きたいと思う。</p> <p>基本的な事だが、1つ教えて頂きたい。 自治協議会と自治振興会は同じものなのか。自治協議会のあり方という議題であるが、自治協議会と自治振興会が別の組織で、もう一度再編成をした方が良いという様な話なのだろうか。その辺りをもう一度教えて頂きたい。 また、自治協議会と自治振興会が同じ様な組織であれば、実際に地域で動いているのは、自治振興会という名称が多いと思う。なので、自治協議会と自治振興会が同じであるという一文がどこかに入った方が良いのかと思う。 自治振興会と自治協議会がどの様な位置付けであるか、その辺りを教えて頂きたい。</p>
事務局	<p>市が進めている地域づくりについて、地域づくり協議会という名称が通例であると思う。その中で、丹波市においては、自治協議会と自治振興会というそれぞれの名称で活動されている地域がある。それぞれ内容としては、地域づくり協議会の活動をされているもので同じものと思っている。</p>
委員	<p>自治振興会がある地域の住民がこれを読んだ場合、自治協議会という別の組織を丹波市は作るのかなと受け止められてしまう可能性が高いと思う。パブリックコメント(意見公募手続)とか出すときに、「自治協議会(自治振興会)」とか「自治協議会(=自治振興会)」や、「自治振興会も自治協議会と定義します」という一文を明記して頂くと共通理解が出来るのではないかと思う。</p>
座長	<p>他市でも同じ様な混乱が起こっている所がある。地域毎に、自分達に馴染みのある名前を付ける場合、地域によって名称が異なってくる。同じ組織の事を言っているけども、名前が違うから、違うのかなという誤解が生じたりしている。そういう意味では、こういう文言を書くときに、丹波市として1つの名称で説明をするのか、どうするのかという事を現状で説明していく必要があると思う。市から呼び掛けをする時は、自治協議会という名称で統一されているという様に理解してよいのだろうか。</p>
事務局	<p>市から呼び掛けをする名称は、条例に書かれている自治協議会という名称で呼び掛けをさせて頂いている。</p>
座長	<p>自治協議会という名称は、市がオフィシャルに使う正式名称で、それに対して各地域が自分達の馴染みやすい様にそれぞれの地域で使っている。指摘の様に、その辺りを共有していく文章が必要だと思う。最終的な報告書や中間報告書を作るにあたり、考えていきたいと思う。</p>
副市長	<p>平成 24 年に、丹波市が自治基本条例を定めて、条例上の自治協議会という制度を公認した。先程もあった様に、自治協議会や自治振興会は、自治基本条例制定以前に実態としてあった。後追いで、性格、位置付け、活動などを制度化した。先に実態があったので、地域によって名称が異なり、後から制定されて自治基本条例では否定はしないという事なので、その辺りの歩みを</p>

会議摘録	
発言者	発言の要旨
座長	<p>どこかに書いておきたいと思う。</p> <p>現在、宝塚市でも、丹波市を見習いながら、まちづくり協議会の条例化を行っている。昨夜、宝塚市でも議論していたが、コミュニティ協議会と呼んだり、まちづくり協議会と呼んだり様々で、条例に位置付ける時に、どう1つの名称として、位置付けるかという検討を、昨日まさしく行っていたところである。丹波市では数年前にそれを行っている。先程副市長がおっしゃった様に、経緯も含めて整理をして頂いて、自治協議会がいったい何なのかという事を皆に誤解されない様に読んで頂ける工夫をお願いしたいと思う。</p>
委員	<p>自治基本条例の制定にあたり、それ以前からある団体の名称を継続して使うのではなく、市の方がこのような協議会を作って、施行されるのであれば、市内全域に統一という事は出来なかったのか。その様な事を思う。その辺りを聞かせて頂きたい。</p>
事務局	<p>現状の流れの通りだと思う。当時において、活動内容については説明をさせて頂いた様子である。しかしながら、組織の名称については、地域の流れがあるので、その名前でも活動を続けて頂くというのが当時の考え方の整理だと思う。</p>
委員	<p>関連した内容についてであるが、自治振興会、自治協議会は実体として、自治基本条例制定以前から、山南町の場合に小川地区でもあった。自治振興会は、財産管理委員会というのを設けており、山林などを所有するために作られていた。</p> <p>自治協議会という形で、丹波市自治会長会に加入する様に市から提案というか、そういう形があったが、山南町の自治振興会、自治協議会は加入していなかった。なぜ加入していなかったのかと聞いてみたが、理解できる答えは無かった。現在は1地区を除いて加入している。その辺りが整理しにくいところである。</p> <p>国の方から、土地を所有しているのかどうかという調査があった。土地を所有している、すなわち財産があるという事である。以前からの自治振興会、自治協議会とは、財産を持っているという考えの組織であった。自治基本条例以降の自治協議会は、そういう事があまりないのかなと思う。私の考え方は、所謂、パブリックセンター(公共施設)としても、所有するのではなく、使用するという様な考え方で地域づくりをやった方が良く現在は思っている。</p> <p>財産の問題など、所有の意識に絡んだ地縁性がまだまだ強く、議論されている新しいまちづくりの方向性などに対して、スッキリ入っていける所と抵抗のある所があると感じている。感想になるが述べさせて頂いた。</p>
座長	<p>地方自治法の中にも、地縁団体というのが位置付けられている。先程の話の財産区の財産管理も含めて地縁団体という事である。それに近いという事なのだろうか。</p> <p>そうなってくると、同じ名前を使っても、性格が違うという事も出てくると思う。そうなると、単に名前を統一したら済むという話ではなさそうな気がする。今までこの様な話の時間を取っていなかったが、改めて名称と内容を合わせ</p>

会議摘録	
発言者	発言の要旨
副市長	<p>て議論をする必要性が出てきたのかなという様に感じた。</p> <p>山南町の自治協議会の発足の経緯を紹介頂いた。【資料4】では自治協議会を作った経緯が分からなくて、一度仮説を立てている。その仮説は、自治会や老人クラブ、婦人会など地縁を基礎にする団体が、人口減少や高齢化によって担い手が少なくなり、互いに支援を行わないと活動をやり難い。そのために、ゆるやかなネットワークを作って、もう少し全体が個別の団体を支援する。そういった関係組織を作ってはどうかという発想で仮説を立てているところであるが、先程の話は、財産をきっちり管理運営するために自治協議会が必要になったという、その様な説明だと捉えたら良いのだろうか。</p>
委員	<p>必要になったというより、財産を既に持っていたという事である。それが、意識の残り方として意外と強いという感じを受けている。それで、今、旧村から作られていた実情について、議論してきた内容の方向性は、非常に私自身は良いと思っているところである。</p> <p>話が戻るが、未来都市創造審議会に私も委員として参加している。未来都市創造審議会でも語られている事で、私が常に言ってきたのは財政の問題である。20年後の丹波市の財政はどうなっているのかということについては、平成32年で赤字になるとシミュレーションをされている。20年後の財政がどうなっているのかという事を1つの視点として組み込みながら、20年後について議論することを提案させて頂いているが、あまりその様な方向にはなっていないと感じる。</p> <p>もう1つ、こちらの懇話会で感じるのは、財政の問題もちろんあるが、今後20年後の人口ビジョンを丹波市は出しているのだから、その時に自治会はどのような姿になっているのか、1つの視点として押させておきたいという様に感じている。それと同時に、自治会を維持する事と自治協議会、自治振興会が地域づくりを担っていくという事で、組織のあり方をずっと議論してきた。これをやはりやるべき、進めていくべきだと思う。</p> <p>現在、老人会が無くなった地域もある。今後は子どもが少なくなり子ども会が成り立つのか怪しくなっている。その様な局面で、今後の自治会がどうなってくるのかというのは、非常に難しい問題だと感じている。</p>
座長	<p>後半について今の言葉でいうと、持続可能な地域づくりのためには、自治協議会を始めとした、地域の組織運営をどうしていけばいいのかという議論も重要であるという事だと思う。人口が減るという事は、地域活動の担い手も減ってくる。その中で、どうすれば力を落とさずに地域活動が担えるだろうか。その辺りについて副市長が先程申されていた、ゆるやかなネットワークという事も1つの方向性としてはあるのかなと思う。この辺りは継続した議論が出来ると思う。</p> <p>先程の副市長の質問について、私なりに整理をさせて頂くと、自治会活動と財産区を併せ持った、自治振興会というイメージでよいだろうか。</p>
委員	<p>単位自治会も財産を持っている。</p>
座長	<p>この辺りも、地域によって担う役割や機能が少しずつ違うのかと思う。上手く</p>

会議摘録	
発言者	発言の要旨
委員	<p>整理していく必要があると思う。</p> <p>情報提供になるのかはわからないが、旧村の方と新住民の方がなかなか上手く交流が出来ないという話があった。その中で見えてきた事が、財産区、財産の問題である。旧村の方は、先祖代々の財産をずっと自分達も受け継ぎながらやっていて、一定の額の財産をお持ちだと思う。そこに、新しい方が引越しされてきた時に、祖先伝来の財産がどうなるのか。という問題が絡んでくると非常にややこしい話になってしまう。なので、財産区、財産の話は切り分けて、活動を担う組織体として自治会と財産区を整理すると、もっと新旧住民の方々は上手く融合ができるのではないかと思う。お金の問題が絡んでくるとコミュニティがややこしくなるので、私は個人的には、切り分けておいた方がよいのではないかと考えているところである。</p> <p>財産の件は、私の所も全く同じである。ただ、自治会に加入した時から有資格者であり、出て行く時には財産は分与しない。この様な形でやっている。</p> <p>また違う話になるが、【資料4】の2ページの真ん中辺りに、「自治協議会を設立することで、以下の効果が期待できると考えた。生活に密着。住んで良かった。住みよい丹波市。」これは当然目標にしていくのだが、私共の中央地区では、成松という商店街を真ん中にして、ドーナツ化現象に似た形になった地域である。これで、【資料4】の1ページの検討の視点として、10年後20年後を考えたとき、空き家が沢山あり、シャッター街、その様なひどい状況にあると思う。一昨日に軽トラ市を開催したら、驚く程の人が出てきた。ところがそれも単発で終わってしまう。この成松は、昔は非常に栄えた商店街が、非常に冷え冷えしている。ところが、その周りでは人が増えている。この様にドーナツ化現象が発生している。そこで、衰退して行く街、真ん中にあたる所の対策について、自治振興会、自治協議会はもちろんの事、行政はどんな支援が相応しいのかということに、考えを記載頂けないかと思っている。今までの話とは少し違うかもしれないが。</p>
座長	<p>持続可能な地域づくりを考える時に、各地域でかなり状況が違うので、その辺りも認識をしながら、議論や取りまとめをしようかという提案かと思う。</p> <p>他に意見あるだろうか。</p>
座長	<p>次の話題として、自治協議会の活動内容について、5ページの下3番のあたりから全てについて、資料の書き方も含めて意見交換が出来ればと思う。活動内容の課題や組織運営の課題を出して頂きながら、上手く解決できている所があれば、意見交換の中で共有ができたらと思う。</p>
委員	<p>行事型から課題解決型へという事は本当にそうだと思う。ただ、今までのしがらみがあって、なかなか難しい事だと思う。本当は、この様な転換が大事だと思っている。</p> <p>その中で、4番の中に、「子どもから高齢者まで、誰もが互いに見守り、支え合いが出来る自治組織」と書いてある。今、この25校区も、社会福祉協議会から協議体の設置という事で、福祉の方も進めている。そして、人との出会い、繋がりを大切に出来る自治組織として、子どもの方は、コミュニティスクールで地域と共有するということから、教育委員会から依頼がある。この様な形</p>

会議摘録	
発言者	発言の要旨
座長	<p>で色々な所からお願いがあって、私達地域コミュニティ活動推進員が色々動きながら、会長と一緒に進めているところである。私の感想ではあるが、市からこちらに十分伝わっているという様に感じる。</p> <p>社会教育の分野で仕事をさせて頂くと、計画書の中に教育コミュニティという名前が出てくる。地域福祉の仕事をさせて頂くと、その計画書の中では、福祉コミュニティという書き方になっている。ある会合で、ある方が、教育コミュニティとか、福祉コミュニティというけれども、〇〇コミュニティとあえて頭に付けなくても、コミュニティは1つではないかというご指摘を頂いた。まさしくその通りだと思う。分野毎にコミュニティがあるのではなく、地域にはコミュニティとは1つなのである。それを各分野で連結する時に、なんとかコミュニティと言ってしまふ。この辺りが、先程の話と同じであって、地域としては、一丸となって色々な形で取り組んでいるという事だと思う。これは市役所の関係の話でもあると思う。</p>
副市長	<p>私あまり話をするのも良くないのかなと思いつつ、思った事を申し上げる。自治協議会のこれからの活動を考える時、地域で起こっている課題は誰が解決をするのかという事と密接に関係していると思う。</p> <p>例えば、先程、空き家の問題が起こっているという様に申された。行政の役割というのは少し別にして、地域としては、自治会が解決する問題なのか、自治協議会が解決をする問題なのか、という事である。もし自治会が解決するのであれば、自治協議会は自治会に対して支援する立場であるのか。また、自治協議会が直接解決をするのか。地域の中の子どもの育成という時に、子ども会が行うのか、自治協議会が行うのか。高齢者の生きがいづくりは、地域の老人クラブがやるのか、自治協議会が行うのか。また、老人クラブだけでは、なかなか行えないから、自治協議会など周り全体がそれを支援するのか。子どもの健全育成について子ども会だけで行えないから、自治協議会が支援するのか。</p> <p>この様な関係で、自治協議会はゆるやかなネットワークとして支援する活動を担うのか。あるいは自治協議会が直接的に行うのか。そこが、おそらく組織の関係だと思う。「統合型」という事になれば、極端な話をすれば、自治会も老人クラブも子ども会も全て無くなり、自治協議会一本になり、その中に部会ができ、全て自治協議会が行ってしまう。一方で「支援型」になると、それぞれの団体や事業を自治協議会が支援をする関係になる。この辺りが、地域の課題を誰が解決するのかというところと組織のあり方や自治協議会の性格を考えると、非常に密接な関係があると思う。その辺りも含めて議論頂きたい。</p>
委員	<p>今の話について、現在の神楽自治振興会や自治会がどのような活動をしているのかということだが、どちらかと言えば、自治会が行事型になっている様な気がする。子ども会であれば、天神講やクリスマス会、自治会単位での秋祭りなど、自治会の各単位で行事を組んでいる。</p> <p>そして、自治振興会は、課題解決型、平成 28 年から課題解決型事業というものに取り組んできている。神楽地域として取り組むべきものは、空き家活用や空き家の情報窓口である。まずはその様な事に取り組んでいる。後は、</p>

会議摘録	
発言者	発言の要旨
委員	<p>大掛かりな自然環境の保全という事を課題解決事業として取り組みをしている。その取り組みプラスαとして神楽を知ってもらうため、神楽に住んで貰える人を増やすために行事の取り組みをしている。その様な意味では、ある程度活動の分散はできていると思う。</p> <p>また、老人会では、集落ごとにサロンが出来上がり、神楽自治振興会有一些程度の支援をしながら各自治会にもできたという経緯がある。ある意味では、「支援型」や「補完型」であるのかもしれない。「統合型」は少し違うのかなと思うが、その様なやり方でやっている。</p> <p>5ページには、行事型から課題解決型に変えていくという表記があるが、私達は課題解決を意識して、一生懸命やっているのではないかと感じている。</p> <p>新井自治協議会は、前にも説明したが、地域の団体数はかなり少ない。老人会、婦人会、子ども会も実質は自治会が指揮している所が多いのではないかと感じている。</p> <p>新井校区内にはサロンの数が2カ所しかなかった。そこで、自治協議会が主体でサロンをやるという形を取り、その中で「他もやりませんか」という形で広めていこうという方針を立てた。現在は、子育てという事も含めて、行事的な事しか出来ていない。その辺りに、もう少し自治会や地域で関心を持っていく必要があるのではないかなと思ひ、「統合型」ではないが、主体となって行事を行った。それが広まってくれば、それから手を引くという様な格好で、ゆるやかにというか、その時の状況に応じてやっていくという様な方針を取っている。</p>
委員	<p>自治協議会は引退しているため、大路についての経験の話である。先程から「統合型」や「補完型」、「支援型」、それから行事型からの脱却という話がある。そこで、大路について考えると、そういう事をあまり意識した事がないと思う。例えば、補完や支援という考え方は、自治協議会が支援をするのだという様な、上下関係がある様な気がする。本来は共に手を繋いでやろうという形で、連携型が良いのではないか、その様な雰囲気では大路はやっている。</p> <p>それから、行事が駄目だという認識はない。大路では健民運動会や新春交流会などの行事がある。そこに集まる事と地域の課題を考える事はセットとして考えると、どちらも効果があり、必ずしも行事をやめる事が良いという事ではないと思う。行事を続けることで、皆の交流や意見交換の場になる。地域によって実情や実態は異なるため、一概にどの方向が良いというのは難しいかもしれない。「支援型」、「統合型」、行事をやめるという事ではなく、行事にも目標があり、目標を考えれば必要な行事が見えてきて、柔軟に考えた方が良いのではないかと感じる。</p>
座長	<p>誤解があってはいけないので再度話をすると、行事型から課題解決型というのは、今までの行事が駄目だという話ではない。その行事の目的を確認しないまま、なあなあでズルズルやってしまうのを、ここでは行事型と言っている。行事の役割や目的を確認してしっかりやって頂くと、今までの行事のままでも課題解決に向けた取り組みになっているはずである。</p> <p>ざっくり書いてしまうと行事が駄目だという話になってしまう可能性があるのですが、整理する時には丁寧に書かせて頂きたいと思う。</p>

会議摘録	
発言者	発言の要旨
委員	<p>活動の幅を広げれば広げる程、時間も人も掛かり、とても無理な話になってくる。地域の課題は、基本は各地域で計画を作って頂き、それをやって頂くという形である。特にそれぞれの活動に問題があると私は思っていない。</p> <p>数年前に島根県の雲南市に視察に行かせて頂いた。雲南市は丹波市よりも遥かに高齢化率が高く、自治会が存続できない状況にある。そうすると、まちづくり協議会は福祉に特化しないとなかなかやっていけない状況である。それが一番の課題だという事で取り組みをされていた。しかし、中身を聞くと、福祉の中に、学びや生涯学習があり、防災のための工夫があった。福祉特化と言いつつも、やはり様々な分野ができてきているという状態であった。</p> <p>丹波市でも人口の推移から言うと、当然高齢化率が高くなり、今までの活動では継続できなくなると思う。その時はその時でどうしたらいいのかという話になると思う。先生の話で、「補完型」、「支援型」、「統合型」という事があり、良く分かったが、今ここで分ける必要もないし、どれを目指すという事も必要ではないと思う。それは各地域で、小学校区で考えるべき問題ではないかと思う。</p>
委員	<p>今、色々と議論を聞いた中で、私自身経験して思った事がある。小学校区という括りの中で物事を考えているが、実際はコミュニティそのものを小さくすると効果があるのではないかと思う。集落の自治会、もっと小さくいうと隣保という形で昔からコミュニティは醸成されている。その辺りは皆が一番理解されているところだと思うが、そのコミュニティが成り立たなくなりつつある。そこに立ち返って、小学校区単位でのコミュニティを考えて行きませんかという事が、自治基本条例だと理解している。</p> <p>その中で、自治協議会そのものの、本来の役割や、課題解決のために一番効果があるやり方とは何であるかという事を考えて行かなければならないと思う。課題解決の取り組みを全て自治協議会で行わなければならないという発想ではない。この事柄は自治会でやった方が効果的である。この事柄は隣保でやった方が効果的である。などと、地域全体の課題解決をするための割り振りを、自治協議会が代表となりつつも、活動そのものは小さなコミュニティで行うという事をもっと考えて行かなければ、全てが中途半端になると思う。</p> <p>小さなコミュニティで出来ない所は、どの様な形で隣の集落と組まそうとか、その様な考え方が自治協議会の中で出来たら、自治協議会そのものの存在感が地域の人に、「自治協議会とはこの様なところなのだ」という様に理解されるのではないかと思う。しかし、現実的には、市役所から沢山仕事を言われている中で、地域のコーディネートをやる様に言われても、現状のままでは、コーディネートをやる余裕がないというのが実態である。地域の中にはコーディネーターが出来た人達が沢山いると思う。その人達をどの様にして結集させるのかという事が、今からの課題ではないかと思う。</p>
座長	<p>先程、神楽では課題が出た時には、自治協議会が中心になって活動を始めるという話があった。その様に、新しい課題が出てきた時、課題解決のための新しい活動が必要になってくる。それを誰が担うと効率的に解決できるのか、また、それを誰が調整をするのかという話であった。コーディネーターという言い方をされましたが、その機能は自治協議会が相応しいのではないかと提案でありましたが、現在各地域では新しい活動を担うときに、誰が担うと良いのかという調整はどこでされているのだろうか。</p>

会議摘録	
発言者	発言の要旨
委員	<p>自治協議会が担うのではなく、自治協議会以外が担った方が良いという場合もあると思う。その時には、集まって頂いて、「私の所で引き受けた方が良いのではないか」と自主的に言って頂くのが一番良いと思う。そういう地域の調整機能というのはどの様になっているのだろうか。</p> <p>中央地区においては、最終的には私の責任となるものの、体育協会とかまちづくりとか色々あるが、活動は全て任せている。</p> <p>以前の会議でも言わせて頂いたが、私は自営業であるため、常に自治振興会の会長として活動をするわけにはいかない。結局、地域コミュニティ活動推進員の負担になるので、各分野に分けて、責任者を決めて、責任は私が取るものの、分業制をとっている。</p> <p>先生が言われている、事業の棚卸しと内容の精査。これが非常に大事だと今つくづく思っている。</p>
委員	<p>私の所は、17の自治会と、老人会や防犯などの地域の団体が全体で37程ある。その中で1つの団体が、今後活動が維持できないという問題に直面している。そこで、自治協議会で活動を維持して貰えないかという話が出ている。来年度の4月からについては、自治協議会の方で、各部を設けているので、その部の方に任せて事業としてやって行かなければならないという様な事を考えている。それは、自治協議会の仕組み・役割として、地域づくりを作り上げて行かなければならないと思う。</p> <p>私共柏原は、常時色々な行事をやっているが、全て実行委員会方式で行っている。柏原地域の団体は3つか4つ程ある。その団体を全てまとめて実行委員会をやって行かないと、自治協議会だけであるとか、まちづくり柏原だけでやるとか、観光まちづくりの会だけでやるとか、今の段階では到底参加者も少なく無理である。なので、各組織から、3役が出るという事ではなく、組織に属している会員を出してもらっている。その様な事から、若い方もいたり、年配の方がいたり、その様な出し方をして実行委員会を立ち上げて活動している。ずっと同じ事をやっているとマンネリ化し、何か刺激を与えないといけないという事で、昨年度から目移りする新しい事業を仕掛けている。しかしながら、子ども達や女性が出て頂くのはなかなか苦労をするところである。如何に、女性や子どもに出て頂くようにするのが、自治協議会の役割ではないかと思い、検討をしながら事業を進めているところである。</p>
委員	<p>神楽自治振興会の今後について、第3回の時の資料に、自治協議会の組織図を出させて頂いた。神楽自治振興会は構成団体という所に、他の自治協議会と比べて数が入らなかった。PTAも無ければ、スポーツクラブ21とか、そういう構成団体が今のところ無い状態である。ただ、直近であれば、もみじの里ハーフマラソン大会が青垣町ではあった。その時に、運営が非常に厳しくなってきた事もあり、実行委員を出して貰いたいという依頼があった。私共の所の理事だけではとても対応できるものではないので、スポーツクラブの方や公民館活動をしている団体などに依頼をして、役員を出して頂いた。ある意味、コーディネートという形を神楽自治振興会はさせて頂いた。</p> <p>神楽自治振興会の現状は、理事長や私が今いる事によって、女性が来てくれる機会が増えてきた。ふれあい喫茶、サロンなど、女性が沢山来てくれる様</p>

会議摘録	
発言者	発言の要旨
委員	<p>になり交流ができた。そこでどの様にして、自治協議会、自治振興会を成り立たそうか、人材を確保しようかというところが、今、正直なところぶつかっているところである。60代の方というのは一生懸命仕事をされてきた方が、男女共に多い。なので、60代になって地域に戻ってきて、失礼な言い方になるが、地域が分からないという60代の方が非常に多い。その為、現在の神楽自治振興会の理事長の後を誰が担うのか、私の後を誰が担うのか。その辺りが大きな課題になっているところである。また、それに加えて、事業の棚卸しという、その振り分けというものを今後1年2年かけてしっかりと考えて行かなければならないという現状である。</p> <p>先程の質問のコーディネートという意味では、ある程度の役割を神楽の中では担っている。例えば、サロンのボランティアが解散してしまった時に、社会福祉協議会に言いに行かれると、自治振興会を紹介してもらい、自治振興会に依頼がきて、ボランティアを募って活動をするという様な事をしている。その様に、コーディネートという事を一生懸命させて頂いているが、一方で、少しずつ地域の力が無くなってきた時に、自治振興会への負担がどんどん増えてくるのではないかと懸念を抱いているところである。</p> <p>私達の中央地区について、先程清水会長からあった事に補足になるのだが、何年か前に中央地区はあまり農業が盛んな地域ではないので、小学校の子ども達にお米を作る所を見せてあげたいという事で、何人かの人が手を上げて頂き、子ども達と米作りの勉強をしている。それもボランティアである。その様な中で、ボランティアの方から、「私、会社を辞めて暇にしているから、いつでも言ってよ」という声があり、その様な方を何人かにお願いしてコミュニティカフェでボランティアとして動いて貰っている。そして、カフェを開くと、事務所に沢山の人が集まってくる様になった。何も用事が無いけれども、来て話をしている中で、今は自助・共助・公助であるが、いつまでも公助があるかわからない。自分達で自助しなければ駄目だろうという事で、何人かでBee 夢(ビーム)クラブを立ち上げ養蜂を始めた。それをもっと広めようという動きもある。また、関大生が愛宕祭りに入っているのだが、その関大生や地域ボランティアの方、自治振興会から何人か入って、CHATTA(チャッタ)という会を作り、空き家対策を進めている。様々なグループやボランティアグループが立ち上がっていき、良い形になってきており、これが私達の課題解決の方法となってきたと思う。ゆるいネットワークであり、色々なボランティアグループができ、盛り上がってきている。</p>
委員	<p>先程のコーディネートの話について。当初は、地域コミュニティ活動推進員に地域のコーディネーターとして期待していた。しかし、実際には事務局長という様な形になっていた。</p> <p>例えば、中央地区であれば、地域コミュニティ活動推進員として、企画立案や調整という事を中心に事務局とは別に動いて頂いていたが、実際には事務が多くなってきて、コーディネートをを行う時間がないという事が現状である。</p>
副市長	<p>少し話が戻るが、先程、自治協議会の性格や活動内容は固定的に「補完型」など「型」を考える必要はないという様な意見を頂いた。確かに成り立ちや組織状況が異なる自治協議会が25校区ある中で全ての自治協議会が同じ</p>

会議摘録	
発言者	発言の要旨
座長	<p>形を取る必要はないかと思う。しかし、今後それぞれの自治協議会がどのような性格を目指すのか、地域の課題に対してどのような役割を担っていくのか、具体的にどのような活動をするのか、個々の自治協議会の中で共有していく必要があると思う。目指す形が定まらなると、活動の内容や性格が固まらないし、どの様に組織評価をするのかということも固まらない。また、予算についても固まらない。単に協議調整の場だけであれば多くの予算はいらないが、自治協議会が自治会や老人クラブの代わりになるなら、相応の予算が必要で、財源を確保していかなければならない。「補完型」で行くのであれば、どうしても出来ない部分をやるための予算を確保するし、出来ない所を補完するだけの組織を考えればよい。あくまでも、困った時に調整するための情報共有の場であったり、場合によっては他の団体を支援しあったりという様な、非常にゆるやかなものであれば、強固な組織もいらぬし、多くの財源もいらぬ。</p> <p>この様な事を考える中で、自治協議会はそれぞれの様な性格を目指すのか、どのような役割を担うのか、どのような活動を行うのかがはっきりしないと、目指す組織などが明らかにならないと思う。そこが重要な議論ではないかと思う。</p> <p>違う見方をすれば、他の団体が自治協議会をどの様に見て位置付けをしているのか、全て共有できれば副市長の話は明確化できるのではないかと思う。自治協議会が考える以上に、周りの団体が自治協議会に何を期待しているのか、どの様に見ているのかという事の共有が非常に重要かと思う。</p> <p>もう1つお金の話について、確かにコーディネート機能はお金が掛からないと思うが、次のステップとして、それぞれの団体に出ている交付金をまとめて使うという一括交付金制度になった時にまた大きな問題が出てくる。誰がそのお金を一度貰って、どの様に配分するのか非常に重い問題となる。他市で一括交付金制度の検討をさせて頂くと、どの地域も大体、1千万円程度のお金となる。各団体では数十万円単位で総額が見えなかったものが見えてきて、それを生かす雰囲気になった時には非常に使い勝手が良い。大きな事業や余った時にはもう1つ事業ができるかもしれない。使い勝手が良い反面、お金の問題は非常に重要である。誰が配分をするのか、「うちにはこれだけしかもらえないのか」という話にならない様に、民主的にその配分が決められるのかどうか、意思決定の仕方が非常に重要になってくる。</p> <p>そう考えた時に、別の形でお金の問題は降りかかってくる事もある。この事については、また次の話題として考えて頂ければと思う。もう一度、活動や組織運営についての議論に戻らせて頂きたい。</p>
委員	<p>小川地区自治振興会の会長と地域コミュニティ活動推進員を兼務しており、事務局という形で、地域づくりセンターを管理している。兼務するにあたり、事務局がやっている仕事を全て洗い出した。会館の使用やコピー機利用などという日常業務が、会館を開けて閉めるまで様々な形で人が来られる。その対応と事務処理がある。それ以外にも、例えば、土地改良区やスポーツ21の事務局になっている。その事についても、委託契約が無いなどがあり、少しギクシャクしていた時期もある。事務局では会議1つとっても、案内を出したり、会議次第や、議事録を作ったりという業務が沢山あった。その様な事を部分的</p>

会議摘録	
発言者	発言の要旨
	<p>にやめた。自治振興会には部会が3つあり、活動を企画して実施するという活動の主体を部会に移した。部会を開くための案内は事務局が行うが、案内文・会議次第・議事録の作成は、全て部会の役割としている。</p> <p>部会でやる行事は何とか行えるが、大きな事業、例えば市民体育大会やもみじ祭りについては実行委員会を作っている。実行委員会の中で去年はこうだったから、今年も同じ様にやっ行って行こうという形で行った。もみじ祭りは来年で 30 回を迎えるが、自治振興会や地域の力で維持できる規模ではなくなっている。関係者や参加者を含め 300 人近くの間人が動いて、300 万円の予算で行っており、来場者は遠方からも来られて 2,000 人位の祭りである。それを今の力量で行うのはかなり大変で、今までもかなり無理をしている。その様な声が上がってきて、どうしようかと思っている。この会議に出て、色々教えて貰いながら思った事は、このもみじ祭りをを行う目的を問いかけた事が無い。なので、始めるかどうかはわからないけれども、そういった事を始めようかなという様に現在は思っている。</p> <p>「支援型」についてもある意味で納得したところがある。支援も色々あり、費用を負担する事や、団体助成をする事とか、事業助成をする事も支援である。</p> <p>朝市をするなどといった、新しい事業についても少し取り組みをしている。その辺りは、色々な議論を積み重ねながらやっている。ただ、今までやってきた事は、継続することが難しいと実感している。</p>
座長	<p>一部の人がやってしまうと負担が大きくなるので、如何に皆に役割分担をしてもらうのかという事が出来れば、活動がそれぞれはつきりしていくのかなと思う。それもある意味コーディネーターである。</p>
委員	<p>社会福祉協議会では、「支え合いの地域づくり」というものを進めようという事で、それぞれの自治協議会の地域コミュニティ活動推進員を窓口をお願いをしている。中には、自治協議会の会長も関わって頂いているところもある。</p> <p>高齢者の方が大変増えてきている中で、7ページに「地域社会の福祉力を高める活動」として、活動内容の 1 つとして目を向けて頂きたいと記載があり、大変ありがたいと思っているところである。一方で少し気になる点がある。自治会に入っていない世帯。アパートに住まいの 1 人暮らしのお年寄りの方などがいて、そういった所が難しい様な話が出てきたり、社会福祉協議会に来たりという事がある。民生委員もご存じない事もある。今後、自治会に入っていない方に対して、自治協議会はどういう対応ができるのかという部分がある。今後、自治会運営が難しくなった時、財産など難しい問題があるかもしれないが、自治会をまとめていく、自治会の包括といった色々な団体が一つになって活動をして行くという様な中で、自治会に入っていない世帯にもイベントなどの呼び掛けができるのかどうか、難しいと思うが、1つの視点として必要になってくると考えている。</p> <p>話は変わるが、自治協議会に 40、50 代の方の関与が少ないと思う。自治会に出られている方を見ても、60、70 代の方が中心であり、後継者となる 40、50 代の方は少ない。先程の話では、60 代で帰ってくる人は地域の事を知らないという話があった。若いと特にそうであるが、交流が出来ていないと思う。その部分を増やしていく運営方法が今後必要になってくると思う。自治会は、どち</p>

会議摘録	
発言者	発言の要旨
座長	<p>らかというと自治会員の利便性のために活動をされているが、自治協議会は自治会に加入していない人も含めて全ての方が見守り支え合いが出来る自治組織というのが、1つ方向性として、どこも目指されるべきだと思った。</p> <p>先程も、ママさんや子どもが参加頂けないという話があった。地域で、若い方々を担い手として引き出して頂いているという地域があれば情報提供して頂きたいと思う。</p>
委員	<p>若い人に参加して貰わなければ、後の事を考えたり、行事が盛り上がったりしないという事で、若者と話し合いをしようという事で集まって頂いた。最初は10人位だったが、10人でも構わないという事で、自分達の大路地区について議論を展開した。また、組織としてある消防団の皆様と話し合い、消防団員の意見を聞いたり、防災についてのイベントや訓練で指導者としてやって欲しいという話をしたり、若い人と繋がりを持ったりした。それから、まちづくりの関係では、自治会から若い30、40代の方を、実際には50代位になったが、その人達を推薦して頂いて、少しずつ地域に何をしたらいいのかという事を考えて頂いた。そこで提案があった事については自治協議会で応援をしようという事となり、実際の運営はお任せをするという様な工夫をしている。大きな効果とまではいかないが、何人かの若い人は、今自治協議会の役員として頑張ってくれているので、多少は効果があったと思っている。</p>
委員	<p>自治振興会の選出ではないので、具体的な例は無いが、私が住んでいる地域の生郷自治振興会について話をします。ここでは、小学生4～6年生を対象にして、交流会館に2泊3日しながら、一緒に宿題、食事をして、子ども達が交流する、また地域のお風呂を貰い湯するなど、地域のお宅にお邪魔して、地域の方と交流を深めるという通学合宿を実施している。これはすごく良い事だと思う。子どもが他の家に行く事によって、そのお宅の方と交流が出来たり、関わりの無かった地域の住民との交流ができたり、地域の方も子どもがいない家でも子供が家に来て、楽しかった明るくなったという意見もある。子どもにも地域で育てて貰っているという意識ができ、すごく地域に愛着を持ってきている。</p> <p>先程座長は、コミュニティは1つであるという話があった。確かにその通りだと思う。しかし、コミュニティは1つでも、教育的機能や福祉的機能といった機能がある。私はその中でも、自治協議会は教育的機能を強めていく事が大事だと思う。すぐには戦力にはならないかもしれないが、子どもが地域に愛着をもって、地域を良くしたいと思う、種まきをすることが大切だと思う。</p> <p>私は今の地域は、こういう取り組みに対して頑張ってくれており、良い所に住んでいると思う。私は転入者で、丹波に転入してきて25年になる。子どもが生まれるまでは地域に関与する接点がなく、愛着もそれほど無かった。しかし、子どもがお世話になることで地域に愛着を持ち、地域のために何かしないといけないと思う様になった。教育的機能など、何か参加するきっかけがあると、地域への愛着が大きくなる。愛着があるから何かアクションに繋がる。こうして、好循環が生まれる。具体的な案は持っていないが、その辺りの教育的機能の評価と好循環を生み出す仕組み作りが出来たら良いなと感じている。</p>

会議摘録	
発言者	発言の要旨
委員	<p>神楽自治振興会では、効果が出ているかどうかは、はっきりとは分からないが、平成たんば塾土曜チャレンジ教室というものがある。これは、神楽地域の子供達の約3分の2位が参加し、定着してきた取り組みになってきている。</p> <p>今、若いお母さん方が、「交流センターを使わせて貰っても良いですか。」とか「拠点施設を使わせて頂いてもよろしいか。」「旧神楽小学校の体育館を私達のグループで使わせて貰ってもいいですか。」そういう問い合わせをすごく頂く様になってきた。それが先程言われた種まきの1つになっているのかと思う。通いやすい拠点施設、事務局でありたいという思いがある。子育て学習センターや社会福祉協議会等と繋がって、情報をお母さん方に発信できる環境を作り、グループの方々と若い方が知り合いになることで「今度神楽でこういう事をしたいと思っている。何か協力して貰える事がある？」という事が言える様に、少しずつ種まきをしているところである。</p> <p>最初の取り組みとして、今年は夏祭りを実行委員会方式で行い、今年は神楽小学校の保護者の方々に来て頂いた。熱心に討論して頂き、「こうした方がええんちゃうか？」という話も頂いた。そういう形でまた種から少し芽が出る様になって行けば良いと思っているところである。</p>
座長	<p>もう少し教えて頂きたい。神楽地区では、若い方々がグループサークルを作られて、そういう方々にセンターを使って頂いているという事だろうか。</p>
委員	<p>神楽だけではなく、青垣町のママさんグループという形である。子育て世代の方達に向けた補助金があまり無いそうである。住民センターを利用すると使用料が必要になる。そこで、神楽の施設は私達が事務局をしているので、この場所であれば私達がいる時は無料で貸し出しをするという取り決めがある。貸し出しをする条件は、「何かあった時には協力してね。」というところで、そうすると結構「何月何日にいいですか？」という問い合わせを今年度は沢山頂く様になった。それで、ママさんグループも頑張っている。</p>
座長	<p>少し言い方を変えれば、お金として費用を払うのではなく、ボランティア活動として、還元して下さいという、そういう関係を作っているという事かと思う。</p> <p>少し突っ込んでお話を聞かせて頂いたのは、おそらく各地域でもママさん方が作っているグループがあるはずで、そういう方々と上手くタイアップしていけば、若い方々や現役世代、子育てをしていますが、やりたい事をしっかりやって頂けると思う。そこにどの様にして、連携の手を伸ばしていけるのかという事である。</p> <p>先月 10 月には、全国的にハロウィンの行事が流行っている。若い方がハロウィンをやったと言うときに、私は少し冗談で「これ、地蔵盆と違うの？」と聞く。ハロウィンで各家庭を回ってお菓子を貰いにいく事と、地蔵盆でも子ども達にお菓子を振る舞う事は結局同じではないかと。なのに、8月にやる地蔵盆は参加頂けない、参加されても担い手にはならない。しかし、ハロウィンは自分達で企画運営をされるのである。何が違うのかザックリ整理をすると、地蔵盆はずっと伝統的にやっているのだからやり方が決まっている。それを担う形である。ハロウィンは新しい行事なので、自分達で企画して新しい発想で運営できるのである。そのやりがいの違いがすごく大きいのではないかと私は思う。</p> <p>私の所の学生でも、任せてしまうと凄い効果や力が発揮できる。少しでも「あ</p>

会議摘録	
発言者	発言の要旨
委員	<p>あせい、こうせい。」と言うと「もういいです。」という話になる。そこから10年20年経った30、40代の方も、同じ様な形になっているのではないかと思う。そういう方々が自発的にできる部分を作って頂ければ、チャンスがあると思う。また、そこで知り合いになったら、そこから色々とお願いをする。その様な関係になれば、連携が図れるのではないかと思う。</p> <p>私の所で、若い方を引き出す方法の1つが芽生えてきている。柏原には、商工会の柏原支部があり、その団体には青年部がある。今までイベントをする場合には舞台の設営が必要で、業者や役員が行っていたが、役員も歳を取ってきて、大変である。お金も掛かる。という事で、青年部の方で一括して引き受けて頂ける様にお願いをし、費用も抑えて頂き、2年程前から行って貰っている。積極的にやって頂いており、ありがたく思う。テント張りについても、以前は役員がやっていたのが、今は青年部の方でほとんどやって頂いている。我々が40、50代の時もそうだったが、仕事が忙しくなかなか手伝った記憶が無い。今の若い子に出てきて手伝ってくれといっても、おそらく無理ではないかと思う。</p> <p>イベントを行うのは土日なので、準備をするのは平日金曜日の昼間や土曜日の朝からになるので、青年部と如何に上手く連携できるのかが大切である。青年部の方は自営業など色々な方がいて、楽しんでやって頂いている。そういったところの引っ張り出し方がどうかと思う。今年も昨年に引き続き夜のイベントをやっている。一昨年は青年部でバザーを出して頂いたが、「今年は無いのか？」という問い合わせが青年部からあり、積極的に考えて頂いていると感じた。その様なところで、柏原の場合は、今後とも若い子を引っ張り出す時にはまず、青年部の方を考えてやって行ったら良いのではないかと思う。</p>
座長	<p>少し話が戻るかもしれないが、各地域の特徴はそこであると思う。自営業の方々が沢山おられ、その方々の持っている技術や技能をどの様に地域活動に繋げていくのかが見えてくると、地域の特徴が見えてきて、地域活動に繋がってくるのかなと思いつつ聞かせて頂いた。</p> <p>他に何か意見はあるだろうか。</p> <p>予定していた時間が近づいてきた。議論を予定していた「拠点施設」、「財源」につきましては、次回の懇話会にて意見交換をさせて頂きたいと思う。</p> <p>事務局には、本日の話を上手く整理して頂き、中間報告に反映をして頂きたいと思う。</p> <p>次回に向けての話を事務局から願います。</p>
事務局	<p>本日議論が出来なかった【資料5】について説明する。1、2ページには、7月に自治協議会に組織運営、活動内容と一緒に拠点施設、人・財源についてもアンケートを行っており、今回は拠点施設、財源にかかる特筆できること、課題となっていることを記載している。</p> <p>また、【資料5】の3、4ページは、11月に施設の維持管理費について、アンケートを行っている。項目として、節約や環境改善に取り組まれている事項、市に期待すること、4ページのグラフで表示しているものは、施設の交付金に対する維持管理費、施設使用料の充当、自主財源の積立について、伺ったものとなっている。資料作成時点では、25分の22自治協議会の回答である。</p>

会議摘録	
発言者	発言の要旨
座長	<p>6. 第5回懇話会開催日程等 平成31年1月24日(木)午後2時00分～ 於:柏原住民センター 研修室</p> <p>これにて、本日の懇話会を終了させて頂く。</p> <p>7. 閉 会</p>